

## 政務活動費出金票

4

出金日	平成30年7月30日													
項目	調査研究費													
摘要	郡山健康科学大学、ギャラクシティ、TRCセミナー（郡山・東京）													
金額	97,540 円													
支出内訳	<p>視察・研修費</p> <table> <tr> <td>セミナー受講料（1名）</td> <td>5,000円</td> </tr> <tr> <td>お土産代</td> <td>1,950円 ①</td> </tr> <tr> <td>宿泊費</td> <td>14,600円</td> </tr> <tr> <td>交通費</td> <td>74,490円</td> </tr> <tr> <td>タクシ一代</td> <td>1,500円 ②</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>97,540円</td> </tr> </table> <p>他会派（自民党7名、公明党1名）と合同視察（計10名）      ①土産代 4,496円中 1,950円      ②タクシ一代 1,500円</p>		セミナー受講料（1名）	5,000円	お土産代	1,950円 ①	宿泊費	14,600円	交通費	74,490円	タクシ一代	1,500円 ②	計	97,540円
セミナー受講料（1名）	5,000円													
お土産代	1,950円 ①													
宿泊費	14,600円													
交通費	74,490円													
タクシ一代	1,500円 ②													
計	97,540円													
領収書	別紙													

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏名 石崎一成  
浜田泰友

承認	会派会長印	経理責任者印
		

# 政務活動費旅費計算書

会派名

しおかぜ

金額

97,540 円

(1人あたり

48,770 円)

用務	郡山健康科学専門学校の視察、ギャラクシティの視察、TRCセミナーの受講								
旅行先	福島県郡山市、東京都足立区、東京都文京区								
旅行期間	平成30年7月30日～平成30年7月31日( 1泊 2日)								
種別	区 間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計				
鉄道賃	自 黒部宇奈月温泉駅 至 郡山駅	円	円						
	自 郡山駅 至 上野駅	円	円						
	自 上野／東京駅 至 黒部宇奈月温泉駅	円	円		74,490 円				
	自 駅 至 駅	円	円		円				
	自 駅 至 駅	円	円		円				
車 賃	区 間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合 計				
	自 至	円	円	円	円				
宿泊料	1泊分				14,600 円				
その他(駐車料金等)	(内訳) セミナー受講料5,000円×1 土産代4,496円中1,950円、タクシ一代1,500円								
備考	他会派(自民党議員会、公明党)8名と合同視察。郡山は自民党、公明党と計10名、ギャラクシティは公明党と計3名、TRCセミナーは公明党としおかぜ1名で計2名。								
合計	97,540 円								

旅行議員氏名 浜田 泰友

石崎 一成

承 認 印

会派会長	経理責任者

# 領 収 書 しおかせ 様

領収年月日 2018. -7. 24

金額 ¥37, 390-

上記金額確かに領収いたしました。

購入内容 JR乗車券類発行

原券番号 -00001

あいの風とやま鉄道株式会社

魚津駅発行 75-06070

印紙税申告納  
付につき富山  
税務署承認済

# 領 収 書 しおかせ 様

領収年月日 2018. -7. 24

金額 ¥37, 100-

上記金額確かに領収いたしました。

購入内容 JR乗車券類発行

原券番号 -00001

あいの風とやま鉄道株式会社

魚津駅発行 75-06067

印紙税申告納  
付につき富山  
税務署承認済

## 領 収 書

No. 1955

日付 2018年 07月 30日

車番 000116 0000

基本運賃 ¥1,500円

合計 ¥1,500円

上記の様に領収致しました

郡山タクシー株式会社  
福島県郡山市大根町字仁池向 5-3  
TEL 024-945-2820

No 201807310027

領 収 書  
(RECEIPT)

お名前 NAME	しおかぜ	様	発行日 ISSUED	2018/07/31
-------------	------	---	---------------	------------

領収金額 BALANCE DUE	7,300
---------------------	-------

(上記金額には消費税が含まれております)  
クレジット分 ¥7,300 を含みます

株式会社ホテルズ・エクスプレス

ドーミーインEXPRESS郡山

〒963-8001 福島県郡山市大町2-18-1

TEL 024-935-5489 FAX 024-935-5489

<http://www.hotespa.net/business/>

請求明細書  
(STATEMENT)

お名前 NAME	しおかぜ	様
-------------	------	---

部屋番号 ROOM NO.	到着日 ARRIVAL	出発日 DEPARTURE	発行日 ISSUED	宿泊人数 PERSON
327	18/07/30	18/07/31	2018/07/31	1

日付 DATE	摘要 DESCRIPTION	金額 AMOUNT	お支払 BALANCE
07/30	チェックイン精算(クレジット)		7,300
07/30	宿泊費		

No. 201807310027 - 013 - S12

ご署名

会社名

利用金額 TOTAL AMOUNT	支払金額 TOTAL BALANCE
7,300	7,300
BALANCE DUE	0

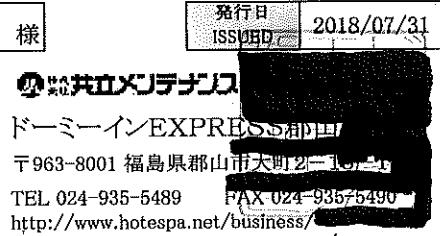
No 201807310029

領収書  
(RECEIPT)

お名前 NAME	しおかぜ イシザキ	様	発行日 ISSUED	2018/07/31
-------------	-----------	---	---------------	------------

領収金額 BALANCE DUE	7,300
---------------------	-------

(上記金額には消費税が含まれております)  
クレジット分 ¥7,300 を含みます



請求明細書  
(STATEMENT)

お名前 NAME	しおかぜ	様
-------------	------	---

部屋番号 ROOM NO	到着日 ARRIVAL	出発日 DEPARTURE	発行日 ISSUED	宿泊人数 PERSON
329	18/07/30	18/07/31	2018/07/31	1

日付 DATE	摘要 DESCRIPTION	金額 AMOUNT	お支払 BALANCE
07/30	チェックイン精算(クレジット)		7,300
07/30	宿泊費	7,300	

No. 201807310029 - 013 - S12

ご署名

会社名

利用金額 TOTAL AMOUNT	支払金額 TOTAL BALANCE
7,300	7,300
BALANCE DUE	0

## 領 収 書

しおかぜ 様

金 5,000 円 (消費税込み)

但し、セミナー参加費として  
(民間化政策のこれからのある方を考える～指定管理をめぐる課題を例に  
平成 30 年 7 月 31 日開催)

平成 30 年 7 月 31 日

株式会社図書館総合研究所  
東京都文京区大塚二丁目 1 番 1 号  
代表取締役社長 小澤 嘉謹

2018年 7月29日(日)

## 領 収 証 様

しおかせ

¥2,248 -

上記正に領収しました  
魚津駅特産物販売店 ミラマルシェ  
富山県魚津市糸迦堂 1-1-1  
TEL 0765-32-3900

但し、お支産代として



0001-0169-0880

2018年 7月29日(日)

## 領 収 証 様

しおかせ

¥2,248 -

上記正に領収しました  
魚津駅特産物販売店 ミラマルシェ  
富山県魚津市糸迦堂 1-1-1  
TEL 0765-32-3900

但し、お支産代として



0001-0170-0881

視察(7/30～31 福島県郡山市・郡山健康科学専門学校、東京都足立区・ギャラクシティ)

費用内訳

費用内訳					備考
	費用	自民党	公明党	しおかぜ	
郡山 お土産代	2,248円	1,573円	224円	451円	しろえびせんべい、加積りんごゼリー4個 参加者10名 自民党 7名×224.8円=1,573円 公明党 1名×224.8円= 224円 しおかぜ2名×224.8円= 451円
ギャラクシティ お土産代				749円	しろえびせんべい、加積りんごゼリー4個 参加者3名 公明党 1名×749.3円= 749円 しおかぜ2名×749.3円=1,498円
計	4,496円	1,573円	973円	1,950円	

平成 30 年 8 月 1 日

## 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名 しおかぜ

議員氏名 浜田 泰友 

以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	7月30日～7月31日
調査研究、研修、 要請・陳情活動先	福島県郡山市、東京都足立区、東京都文京区
参加者名	浜田泰友、石崎一成
目的	郡山健康科学専門学校の視察、 ギャラクシティの視察、 TRCセミナーの受講のため
調査研究、研修、 要請・陳情活動 内容	別紙

研究研修及び調査請願のため旅行した場合に作成し、收支報告に添付(任意様式可)

平成 30 年 8 月 1 日

## 視察・研修報告書

日 時 : 平成 30 年 7 月 30 日 (月) ~ 7 月 31 日 (火) 2 日間  
視察先 : 郡山健康科学専門学校の視察 (福島県郡山市)  
ギャラクシティの視察 (東京都足立区)  
TRC セミナーの受講 (東京都文京区)  
参加者 : 浦崎将隆、廣田俊成、梅原健治、関口雅治、石倉彰、金川敏子、水田万輝子  
(自民党議員会)、中瀬淑美 (公明党)、石崎一成、浜田泰友 (しおかぜ)  
計 10 名  
※郡山は 10 名、ギャラクシティは中瀬、石崎、浜田、TRC セミナーは中瀬、  
浜田の参加  
報告者 : 浜田泰友

### 1. 郡山健康科学専門学校の視察 (福島県郡山市)

(遠藤典雄・こおりやま東都学園理事、牛井渕浩三・同事務部長、八倉巻隆・株式会社オレンジ、坂野元哉・同)

富山県内企業で障害福祉サービス事業を営む株式会社オレンジより、現状では介護や物流をはじめ各分野で人手不足が始まっている。そこで、人材誘致、人材育成を行いたい。郡山健康科学専門学校を参考に人材育成の学校開設を進めたい。との呼びかけがあり、魚津市議会有志にて専門学校誘致の可能性について、同校を視察させていただいた。

専門学校を運営しているこおりやま東都学園理事、遠藤氏からお話を伺った。当校は平成 5 年に開校し、25 周年を迎える。遠藤理事は第 3 期の卒業生であり、当時の会計本科を修了した。学生の視点から経営を見たり、人を集めたりする任務に就いている。

2018 年上半期で 70 件の人手不足原因の倒産が起きており、人手不足が深刻になっている。特にサービス業、運送業、建設業、介護業界など。世界にも目を向けて、若い人を集めていかないといけなくなっている。当校では 2019 年、日本語学科をオープンする予定となっており、2 年課程で 80 名が定員となる。

外国人の場合、将来的に地元に定着するように中長期的に取組みが必要。現在、高齢者福祉や障害者施設の運営にも携わっており、卒業後の受け皿を用意できる。外国人が地域に根差す手段の一つとして、介護福祉の仕事がある。

外国人を受入れする日本語学科は文科省の認可となる。郡山は仙台の入管が厳しく、設置申請が半年遅れた。2018 年 3 月申請→入管ヒアリング→文科省ヒアリング→認可の流れとなる。1 年半くらい。認可前に教員の採用が必要となり、このハードルが高い。特に主任教員の確保が難しい。専任教員として勤務経験が必要。中国まで行つ

て人材を探した。中国3校と連携協定を結べたのが良かった。学生を融通してもらえる。ブローカーを使うと身元がはっきりしないこともある。リスク回避の工夫がいる。

企業奨学金を用意している。ジェイバック社。月7万円、年間84万円の給付。給付を受けた期間の倍の年数を卒業して同社に勤めることで、返済が免除になる。入学金の負担が少ないような制度も用意している。

## 2. ギャラクシティの視察（東京都足立区）

（村田憲司・館長、田部一志・まるちたいけんドームディレクター）

ギャラクシティは足立区が整備したことでも未来創造館、文化ホール、まるちたいけんドーム（プラネタリウム）の体験型複合施設である。館内にあるスペースあすれちっくは直径17m、高さ10mの国内最大級のネット遊具で、利用者の一番人気となっている。

平成6年度に開館。5年前に21億円の整備費をかけリニューアルし、平成30年4月から現在の指定管理者が管理運営している。指定管理者である村田館長からお話を伺った。

入館者は平日3000人、土日5~6000人で月11~12万人程度。夏休みは平日5~6000人、土日1万人で8月は20万人程度。年間で140~150万人の利用がある。全天候型のため、雨が降ると客足が多くなる。

ネット遊具（スペースあすれちっく）は2億円で整備。維持費はプラネタリウムが1000万円ほど、ネット遊具はそこまでかからない。指定管理料は5億円で光熱水費は別払い、修繕費は管理料に含んでいる。スタッフは120名、内30名が正規職員で残りはパート。

指定管理を受けるにあたり、年間1200回以上のイベント開催を約束した。現在、区民の利用が3割のため、区からは区民に利用してもらえるような取組みを希望されている。

## 3. TRCセミナーの受講（東京都文京区）

TRCセミナー「まちの課題を解決する図書館」

民間化政策のこれからのあり方を考える—指定管理をめぐる課題を例に—

（宮脇淳・北海道大学 大学院法学研究科・公共政策大学院 教授）

民間化の経緯として、行政からの業務委託など請負型の事業から指定管理制度など民間工夫型の事業が増えている。請負型は行政が民間に指定した仕事のみをさせ、民間に勝手なことはやらせないというもの。民間工夫型は行政と民間が共に公共サービスを提供していくことになる。しかし、予算・人件費の削減というリスクを民間に転嫁する、行政の縛りがきついなど、民間化の課題は残っている。

何でも民間化が良いわけではない。札幌市の事例では、10万円以上をすべて入札にした。結果、行政の事務量が増えた。行政全体としてのコストは減らない。また、価格優先は安からう悪からうにもつながる。

地域政策とプロジェクトの切り分けについて。プロジェクトは指定管理などの事業を指す。地域政策は行政の判断により外部経済が大きく変化する部分、これを民間が負うのは不適切。例を挙げれば、学校隣接施設の指定管理の場合、行政の判断で学校を移転したとする。当然、隣接施設のメインターゲットである学生がいなくなることになるが、この経営責任を指定管理者側に負わせるのは不適切ということになる。

指定管理者の状況を市民はどう知ることができるのか。指定管理者は法人であり、全ての情報が公開されるわけではない。行政が経営状況も審査している、ということが担保となりえる。したがって、行政としては、契約により、経営状況を把握できるようにしておく必要がある。

民間工夫型と言うが、創意工夫は自動的には生じない。インセンティブなしでは民間企業は工夫しない。しかし、契約後に後出しで工夫しろというのも適切ではない。

モニタリングの質について、利用者だけの満足度調査では不十分。利用しない人にも聞く。優先順位がないと何を重要視しているかが不明。

行政と指定管理者の情報共有できているか。できていないところからサービスが低下していく。将来リスクの共有もできるだけ図っていくことが必要。

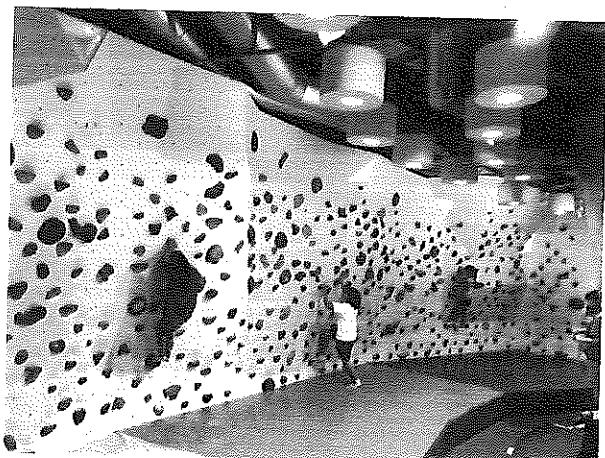
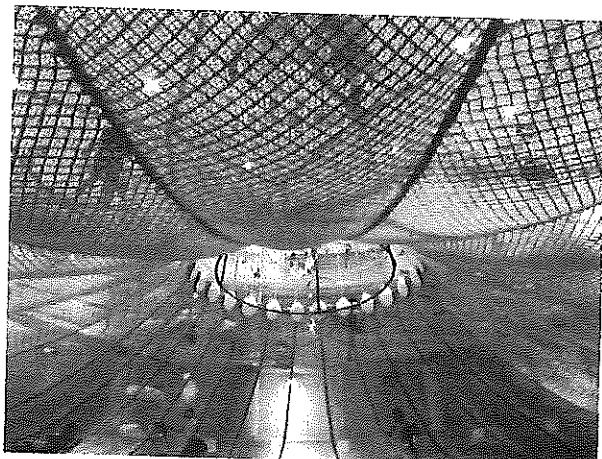
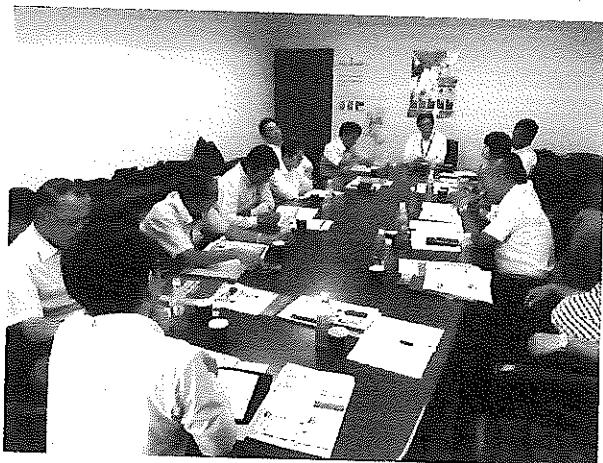
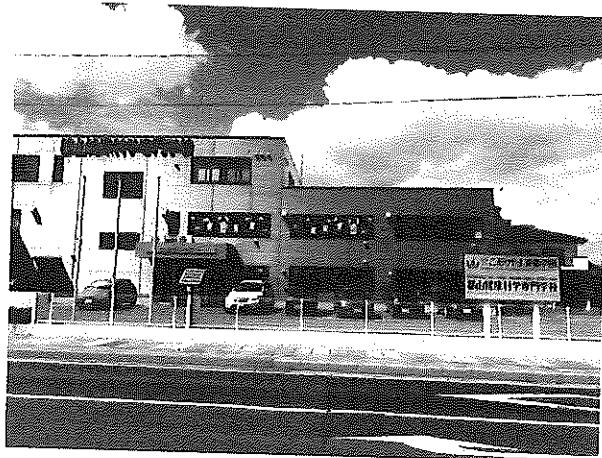
#### 4. 考察

郡山健康科学専門学校の視察について、魚津市の市有地を使った専門学校誘致ができるないか、という呼びかけが市内民間事業者からあり、市議会有志での視察となった。これから魚津市が考えなくてはならない方向性として、民間連携がある。しかしながら、公共性を優先する市と利益を出さなくてはならない民間事業者では考え方、取組み方にどうしても隔たりが出てきてしまう。課題としては、いかにこの隔たりを埋めていく努力を行うかが挙げられる。魚津市では現在も市営プールや廃校施設のサンディング調査を行い、民間事業者との話し合いを行っている。そこで、どれだけ市と民間事業者の距離を縮めることができているだろうか。ぜひ、魚津市で新しい事業が興るように、取組みを進めてほしい。

遠藤理事から、流行り廃りで学科を作り、つぶすのが専門学校というもの。日本語学科も人が集まらないようなら廃止する、との話があった。行政としては、事業の継続性を考えもらいたいところではあるが、採算が取れないものを続けていては専門学校 자체がつぶれてしまう。逆に、廃止して、また新しいものをすぐ作るのが民間の柔軟性である。このような発想を行政として理解していく必要があると考える。

全天候型の子どもの遊び場の参考事例として、ギャラクシティを視察した。今年の夏は猛暑で外遊びの危険性が叫ばれたが、雪の多い北陸では冬季も外遊びが制限される。全天候型で体を動かせる遊び場を目玉に、子どもを育てやすい環境を市内外にアピールすることも定住促進施策として必要になる。ギャラクシティのネット遊具は富山県の業者が整備している。メンテナンスのしやすさも含めて、検討が必要と考える。

民間化政策について、TRCセミナーを受講した。前述のとおり、魚津市においても民間連携、民間活用が進められている。セミナーでは、民間とは契約がすべてであり、契約についての話が多岐にわたった。請負型の時代から変化していることをまず認識し、この分野での職員研修なども増やしていくことが必要と考える。また、契約にあたり、行政が重要視するものは何か、はっきり基準を示せるようにすることも求められている。これは発注時の公平性の基準、契約後の評価の基準につながっていく。民間の工夫を最大限に引き出せるように、また無駄なトラブルを防ぐためにも、行政側の工夫が必要と考える。



# 郡山健康科学専門学校

平成 30 年 7 月 30 日

報告者: 石崎一成

目的: 魚津市内への学校施設誘致に関する調査研究の為

## 内容:

郡山健康科学専門学校の外国人学生獲得の取り組み

・外国人の為の日本語学科開設

①高度な日本語をマスターし、日本と関連性の高い企業で活躍できる人材を育てる。

②日本の文化や伝統を研究したりビジネスチャンスとしたい外国人の学びの場とする。

③専門性の高い日本語(医療専門用語など)を習得することで、日本国内での就職をあつせんする。

## 考察:

今回視察した学校法人こおりやま東都学園(H15年3月創立)では、郡山健康科学専門学校(同年開校)し、医療系と幼児教育(保育)分野の専門性を高める学校であった。

昨今の海外からの日本語や日本文化に対する注目や、経済的な視点、そして日本の雇用における人材不足を解消するための一つの手法として海外からの人材獲得に着目して新たに日本語学科を設立している。

魚津においても若者人材の不足が顕著となっているが、学校施設誘致そのものは課題が多くあるものと考えられる。しかしながら、人材育成や確保といった観点からサテライト教室やICTを活用した分校などは模索の余地があると考えられる。

また、海外からの人材を研修生として受け入れている企業は市内にも多く存在するので、専門的な日本語を習得した留学生のインターンなどの受け入れは早期に整備する価値はあると考えられる。

# ギャラクシティ

平成 30 年 7 月 31 日 東京都足立区

報告者: 石崎一成

目的: 公共施設の利活用と指定管理による活性化の事例検証

内容:

ギャラクシティはこども未来創造館・マルチ体験ドーム(プラネタリウム)・西新井文化ホールの 3 軸からなる複合施設である。

また、指定管理者は「みらい創造堂」であるが、ヤオキン商事株式会社と株式会社協栄の 2 社からなる共同体が運営する形となっている。

単にプラネタリウムではなく、プロジェクションシステムにより全天を動画として放映することでリアリティの高い映像であったり、ワイプや拡大など学びの資料としての質も大幅に上げている。

空き空間の利用では、吹き抜けの空間に大きなネット遊具を設置することで非日常的な空間利用を体験できるようになっている。

こども未来創造館は未就学児から小学生を中心とした体験型・ワークショップ形式を中心となつた事業を帰宅時間後や休祭日に切れ目なく実施、夏休み中などは自由研究課題もできる教室や親子参加事業も多く設定されている。

西新井文化ホールは大人の文化創造と余暇の楽しみの視点から事業を設定されているが、都心という交通インフラが整備されたエリアであるがゆえに芸能人やタレントが近隣施設と被ると集客が落ちるジレンマを持っているという。

考察:

魚津と比べると比較外レベルの人口密集地であることから、施設環境や事業内容は規模が非常に大きかった。事業そのものを真似をするということはなかなか困難であるが、取り組みに関する注力される部分は大いに参考になる。

まずは雨天時の子供の居場所や遊び場として、または狭小空間の有効活用による遊びの確保は見習うべきところがあった。円柱状に吹き抜けのエリアに 3 階部分から中 1 階までに直径約 10 メートルの籠状のネット遊具を設置して、立体的で階層的な空間を演出している。建築物の空間設計としては吹き抜けを作ることで開放感を演出する役目があるが、ある程度の開放感を維持したまま遊び場に転換した発想は素晴らしいと考えられる。また、形状がカニ籠に似ており設置業者も富山県内だったので、カニ籠漁発祥の地「魚津」としては、うまく取り込んでみても良いと思えた。

壁を利用したボルダリング遊具の設置も全部で4面あり、低年齢の幼児から大人でもトライできるものまで用意されていた。国際競技としてもフリークライミングがオリンピック競技となったことから、気軽に子供が体験できる施設の普及は現実的だと考える。

プラネタリウムは現在魚津には無い施設であり、設置にも多額の費用を必要とする為、あえて必要はないと考える。しかしながら、埋没林博物館のスクリーンなどは多映写プロジェクションすることで利活用が可能と考えるので、研究の余地があると考える。

新川文化ホールの稼働率アップや利活用を考えると半全天候型の遊びの空間を作れる場所が有り、芝生広場やホールの使用状況の低さを改善するためにも大いに学ぶべき必要性があると感じた。

## 政務活動費出金票

9

出金日	平成30年11月19日		
項目	調査研究費		
摘要	立山の塔慰靈行事、久米島視察（沖縄・久米島）		
金額	72,675 円		
支出内訳	視察・研修費 宿泊代（1日目） 11,340円 ① 宿泊・航空代（3日目） 33,800円 小松↔那覇 航空代 15,400円 那覇↔久米島 レンタカ一代 2,575円 手数料 2,000円 宿泊代（2日目） 7,560円 ② <hr/> 計 72,675円		
	他会派（自民党議員会2名、公明党1名）と 合同視察（計4名）		
領収書	別紙		

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏名 浜田泰友

承認	会派会長印	経理責任者印

# 政務活動費旅費計算書

会派名

しおかぜ

金額

72,675 円

(1人あたり)

72,675 円)

用務	立山の塔慰靈行事参加、久米島高校魅力化事業視察、海洋深層水複合利用視察				
旅行先	沖縄県糸満市、久米島町				
旅行期間	平成30年11月19日～平成30年11月22日( 3泊 4日)				
種別	区間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合計
鉄道賃	自 小松 駅 至 那覇 駅	円	円		33,800 円
	自 那覇 駅 至 久米島 駅	円	円		15,400 円
	自 駅 至 駅	円	円		円
	自 駅 至 駅	円	円		円
	自 駅 至 駅	円	円		円
車 賃	区間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合計
	自 那覇空港 至 平和祈念公園	2,575 円	円	円	2,575 円
宿泊料			2泊分		18,900 円
その他(駐車料金等)	(内訳) 手数料2,000円				2,000 円
備考	他会派(自民党議員会、公明党)3名と合同視察。 小松→那覇にホテル代含む。 那覇空港から平和祈念公園まで公共交通機関を利用できないため、レンタカーを使用した。 レンタカー経路は那覇空港→ホテル(糸満市内)→平和祈念公園→那覇空港				
合計					72,675 円

旅行議員氏名 浜田 泰友

承認印

会派会長	経理責任者



## 請 求 書

請求日 2018年12月05日  
No. 1122 Page: 1

〒937-8555  
富山県魚津市釈迦堂1-10-1

浜田 泰友

殿

〒937-0805 富山県魚津市本江2860-2

**魚津交通株式会社**

TEL(0765)22-0640 FAX(0765)23-0640

e-mail: info@ubuzu-kotsu.co.jp

代表取締役社長 谷川 悠

/ / ~ / /

前回御請求額	今 回 御 入 金 額	差 引 額	今 回 御 利 用 額	チケット枚数	今 回御請求額
*****	*****	*****	65,115		~ 65,115

日付	乗車地	経由地	降車地	運賃	摘要
18/11/19	ザンビーチホテル		宿泊代	11,340	谷川
18/11/19	小松 ⇄ 那覇	ホルム	航空代・ホルム代含	33,800	谷川
18/11/19	那覇 ⇄ 久米島		航空券代	15,400	谷川
18/11/19	Sクラス 2日間	トヨタ ヴィッツ	レンタカー代	2,575	谷川
18/11/19			上記一式手数料	2,000	谷川

お振込みは下記のご都合の良い銀行宛にお願い致します。





## お勘定書

STATEMENT

070805

リゾートホテル 久米アイランド

〒901-3112 沖縄県島尻郡久米島町字真我里411  
TEL (098) 985-8001 FAX (098) 985-8009  
411 Magari Kumejima-cho Shimajiri-gun  
Okinawa 〒901-3112 Japan

客室番号 ROOM No.	お名前 NAME OF THE GUEST	人数 PERS	ご到着日 ARRIVAL	泊数 STAY	ご出発日 DEPERTURE
6511	浜田 泰友 様	1	2018/11/20	1	2018/11/21

日付 DATE	明細 DESCRIPTION	料金 CHARGES	支払種別 PAID	お支払 PAYMENT	備考 REMARKS
11/20	ご宿泊料金【朝食付】	7,560	PAID		
			RECEIVED		
合計		7,560		0	

クーポン	クレジット	売掛	その他	返金	ご請求金額
0	0	0	0	0	7,560

No. 2018112100020

発行日 2018/11/21 担当 05

CR

ご署名

SIGNATURE

会社名

FIRM

ご住所

ADDRESS

ありがとうございました。またのご利用をお待ち申し上げております。  
誠に恐縮ですが、サービス料としてお勘定の10%及び所定の税金を頂戴致しております。  
尚、既にお渡し済みの伝票等につきましては再発行致しかねます。

We hope to have opportunity of serving you again. A10% service charge and tax have been added to your bill.  
The bill already given to the customer cannot be reissued. Thank you.

平成 30 年 11 月 26 日

## 調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名 しおかぜ

議員氏名 浜田 泰友



以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	11月19日～11月22日
調査研究、研修、 要請・陳情活動先	沖縄県糸満市、久米島町
参加者名	浜田泰友
目的	立山の塔慰靈行事参加、 久米島高校魅力化事業視察、 海洋深層水複合利用視察のため
調査研究、研修、 要請・陳情活動 内容	別紙

研究研修及び調査請願のため旅行した場合に作成し、収支報告に添付(任意様式可)

平成 30 年 11 月 26 日

## 視察・研修報告書

日 時 : 平成 30 年 11 月 19 日 (月) ~ 11 月 22 日 (木) 4 日間

視察先 : 立山の塔慰靈行事 (沖縄県糸満市)

久米島高校魅力化事業／海洋深層水複合利用 (沖縄県島尻郡久米島町)

参加者 : 関口雅治、石倉彰 (自民党議員会)、

中瀬淑美 (公明党)、浜田泰友 (しおかぜ)

計 4 名

報告者 : 浜田泰友

### 1. 立山の塔慰靈行事 (沖縄県糸満市)

立山の塔は第 2 次世界大戦での沖縄、南方地域の戦場で亡くなられた富山県の戦没者のための慰靈塔で、昭和 40 年に建立されている。合祀者は 14,872 柱。

沖縄平和祈念公園内には都道府県の慰靈塔・碑が建てられており、この時期にそれぞれの都道府県が慰靈行事を行っている。公園内にある平和の礎には都道府県ごとに戦没者の名前が刻まれており、戦争の犠牲者がいかに多かったかを物語っている。

### 2. 久米島高校魅力化事業 (沖縄県島尻郡久米島町)

(中村幸雄・プロジェクト推進課長、岡本耕平・魅力化コーディネーター)

久米島町は離島であり、激しい人口減少に強い危機感を持っている。島に一つだけの久米島高校。島内進学率が低く、中でも園芸科は定員どころか過半数割れの志願状況であり、存続危機にあった。島に一つの高校がなくなるということは、子育て世代の移住・定住先の選択肢から外れるということ。より過疎化が深刻化する恐れがあった。

そこで、久米島町として、久米島高校を、地域、保護者、学生それぞれにとってより良いものにしていくという取り組みが始まった。取り組みは島根県の隠岐島前高校の事例を参考にした。平成 25 年、魅力化コーディネーターの配置。平成 26 年、離島留学制度の導入。平成 27 年、学習センター開設。平成 28 年、町営寮開設。

取り組みを始めて、進学率は 7 割から 8 割前後に伸びた。しかし、今年は落ち込む見通しになっている。離島留学では寮の定員 32 名に対し、関東を中心に 28 名が在籍している。今後は島にしかない学びを作りだし、高校生が将来、久米島町に定着定住していくよう、事業を推進していく。

### 3. 海洋深層水複合利用 (沖縄県島尻郡久米島町)

(中村幸雄・プロジェクト推進課長、大田直樹・プロジェクト推進課)

海洋深層水は太陽の光が届かない 200 m 以深の海水のこと。① 低水温性。② 清

浄性。③富栄養性。などの特徴がある。全国15カ所で取水されており、久米島は日量13,000t／水深612mと日量、水深は全国1位と2位、世界でも2位と5位である。ちなみに、滑川は日量2,000t／水深333m、入善は日量2,400t／水深384mである。

沖縄県の研究所が平成12年より立地しており、総工費約52億円、うち国費約23億円。沖縄県温度差発電実証設備は平成24年に、佐賀大学海水淡水化・水素製造施設は平成25年にそれぞれ建設されている。

海洋深層水の利用では、水そのものの利用、エネルギーとして冷熱利用を行っており、海ぶどうの養殖、車エビ種苗養殖はそれぞれ国内シェア1位となっている。関連企業は18社、雇用者全体で約300名、生産額年25億円となっている。温度差発電も行っており、将来的には取水量を現在の10倍としていきたい。久米島は離島のため、元々の発電コストが高い。取水量が10倍になれば、火力発電並みの発電コストにまで下がる。これらを久米島モデルとして、熱帯・亜熱帯諸国のモデルケースになればと考えている。

#### 4. 考察

立山の塔慰靈祭は太平洋戦争での沖縄、南方戦線での戦没者の慰靈のため、毎年行われている慰靈行事である。富山県の戦没者だけでも14,872名と、先の戦禍がいかにすさまじいものであったか、忘れてはならないことである。政治に携わるものとして、平和に対する思いを持たなくてはならないことを改めて強く認識した。

久米島高校魅力化プロジェクトは、県立高校ではあるが、町に一つの高校の魅力を町ぐるみで高めていこうとした取り組みで、離島留学制度では県外から多くの高校生を呼び込んでいる。また、運営は地域おこし協力隊が担っており、こちらも県外から多くの隊員が参加している。町出身者の定着という目的に合わせて、町外出身者の移住定住や交流人口拡大にもつなげている。沖縄の離島という環境は、学生の学習面や生活面ではデメリットがあるかもしれない。しかし、デメリットを超えるメリットとして、離島でのスローライフ、さまざまな地域出身の学生たちとの出会い、そして、学力の底上げとそれ以外の学びの機会を作り出している。高校が置かれている環境を「魅力」と捉え、人を呼び込む姿勢は、本市にとっても参考になる事例と考える。

海洋深層水複合利用は、水としての利用、化粧品などへの素材として利用、水温を下げる冷熱利用、温度差による発電など、さまざまな活用をされている。まだまだ多くの需要があるが供給が追いついていない状況にあり、今後は取水量を10倍に増やしていくとのことであった。海洋深層水は近隣の滑川、入善でも活用されているとおり、深い海までの距離が短い富山湾は立地条件が適している。本市には水族館などの海洋研究施設があり、比較的寒冷な北陸での活用法を探ることも考えてよいかもしれない。水深の深いところに生息するズワイガニやベニズワイガニの養殖や冬季の熱利用など、魚津ならではの活用ができれば、産業の活性化につながっていくと考える。

写真

